

# コロナ禍におけるローカルベンチャーの 事業・プロジェクトへの影響調査



ローカルベンチャーラボ  
2020年10月

1. アンケート結果 サマリ	P3
2. アンケート概要	P4
3. アンケート結果 質問回答詳細	P5～27
3-1.新型コロナウイルス感染拡大による事業影響	P6～
3-2.コロナ禍で事業推進するために取ったアクション	P11～
3-3.コロナ禍での地域との関り方や捉え方の変化 (地域での事業・プロジェクト実践あり)	P17～
3-4.コロナ禍での地域との関り方や捉え方の変化 (地域での事業・プロジェクト実践なし)	P21～
3-5.現在困っていること・課題や、ローカルベンチャーラボ・ ローカルベンチャー協議会への ニーズ	P25～

# 1. アンケート結果サマリ

- ローカルベンチャーのプレーヤーたちは、コロナ禍で事業へのマイナスの影響（マイナスもしくは+マイナス両方の影響の回答78%）を受けているが、危機にあっても前向き（ポジティブ67%）に、新しい取り組みを始めている。（P7-8、16参照）  
社会の変化が激しい時代において、制限の中でも新しい価値を生み出すための行動を続けており、地域での新しいイノベーションの担い手になっている。
- ローカルベンチャーの担い手である経営人材が移住・起業を決めた要因において、ローカルベンチャーの施策※1(40%)に関する項目が多くあがった(P20参照)。また、これから移住・起業を考えたい潜在層にとっても、地域との関係性・地域内の関係性といった関係性要因(47%)に続いて、ローカルベンチャーの施策(28%)が最も重要な要因としてあげられている(P25参照)  
イノベーションを担う経営人材を地域に呼び込むためには、ローカルベンチャーの施策が有効であったと示唆される。
- 地域のプレーヤーが事業を推進するうえで、各地の取り組みやケースに関する情報交換、事業相談の実施に対するニーズが高く、横のつながりのネットワークを構築することが、各事業のレジリエンスを高めていると考えられる。（P14）  
ローカルベンチャーラボは地域を超えた事業者のネットワークとして機能している。（P15）
- オンライン化の促進、価値観の変容により地域への関心は高まり（事業・プロジェクトを実施中・都市部層、事業・プロジェクトなし層共に50%以上が今まで以上に前向き）、具体的に地域と関係性を深めることへのニーズも増えている。（P17、21参照）  
移住に限らない、多様な関わり方の機会づくりが求められる。（P18、22参照）

※1 ローカルベンチャーの施策とは、地域資源を活かしたビジネスを創出・担い手を育成することを目指した、地域の起業家育成の仕組みづくりや、起業文化の醸成、地域資源の見える化・発信などを指す。

## 2. アンケート概要

### 実施概要

---

実施主体 NPO法人ETIC.

調査対象 ローカルベンチャーラボ1~4期生

調査方法 Googleフォーム

回答数 131件

調査期間 2020年9月11日~2020年9月26日

### アンケート設問

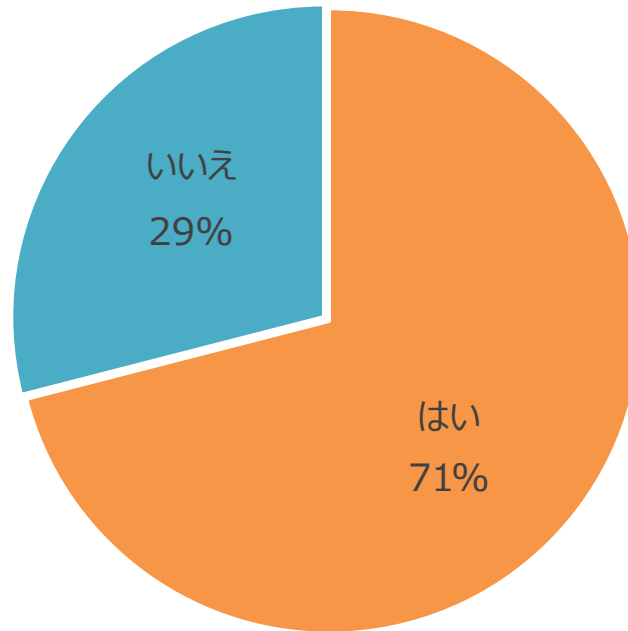
---

- ラボ参加年度
- 【問0】 現在、何らかのプロジェクトや事業に取り組んでいますか？  
（※起業や協力隊などの形式に関わらず、地域に通いながら実践していること、地域事業者の一員として取り組んでいることなどを含みます）
  - 「はい」と回答し、ローカルで事業やプロジェクトを実施している方へ（回答数93件）  
【問1】 ~ 【問10】
  - 冒頭の設問に「いいえ」と回答した方へ（回答数38件）  
【問11】 ~ 【問14】

# アンケート回答結果 質問回答詳細

## 3-1.新型コロナウイルス感染拡大による事業影響

- 70%以上が、現在地域で何らかのプロジェクト・事業に取り組んでいると回答。  
プログラム終了後も非常にアクション率が高く、具体的に事業に取り組んでいるメンバーが多い。

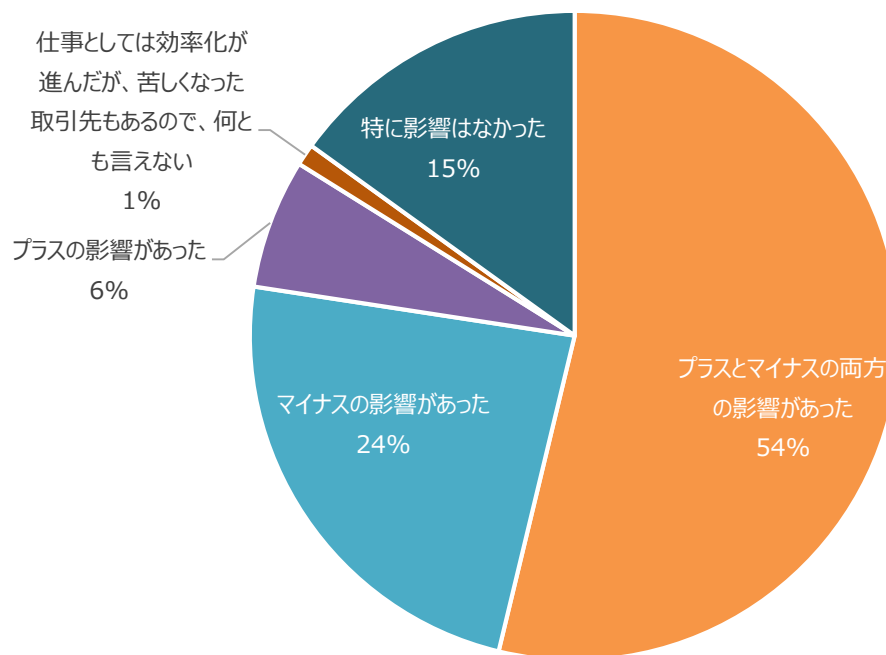


n=131

【質問0】現在、何らかのプロジェクトや事業に取り組んでいますか？

# 3-1.新型コロナウイルス感染拡大による事業影響

- 「プラスとマイナスの両面の影響があった」「マイナスの影響があった」の回答合計が78%であった。  
ローカルベンチャーは、観光、カフェ・飲食業、ものづくり、場づくりなど、コロナ禍の影響を受けやすい事業形態も多く、何らかの打撃を受けている事業者が多い。
- 一方で「プラスとマイナス両面の影響があった」と54%が回答、「プラスの影響があった」6%と合わせると**60%もの事業者がプラスの影響があった**と回答をしている。



n=93

【質問1】新型コロナウイルス感染拡大が取組みに与えた影響について教えてください。

# 3-1. 新型コロナウイルス感染拡大による事業影響

- 具体的な影響は、「オンラインの推進」「地域の中で新しい役割ができた」「価値観の変化による新しい顧客の獲得・自身の事業変化」の3点が多くあがっており、コロナ禍での価値観や地域内の役割の変容を活かし、新しい事業機会を創出していることが分かる。

【問1補足】 コロナの影響について、可能な範囲で具体的にお伝えください。（記述）

≪プラス面 抜粋≫

## ① オンライン化の推進

- コロナだからこそそのオンラインの場作り、普及活動を行うことができた。
- オンラインで遠くのアドバイザーともミーティングできるようになった。
- オンラインを活用したMTGなどが増えているため、効率化の観点でプラス。
- 地域に行けなくなってしまったが、オンラインのハードルが低くなったので、逆に地域と近くなった気がする。オンライン料理教室なども実際にはじめ、定期的開催したり、6次産業化のお手伝いができるようになった。
- 本業が在宅ワークになり東京に縛られなくなったため、地域に長く滞在することができている。

## ② 地域の中で新しい役割ができた

- コロナ対策として実施するプロジェクトや案件が生まれた。
- こうした状況下において、経営相談員的な仕事が増えた。
- コロナ対策の事業の仕事が増えた。
- デリバリーサービスなどの新規事業が生まれた。

## ③ 価値観の変化による新しい顧客の獲得、自身の事業変化

- コロナを契機に活動に興味を持ってくれる人が増えた（林業系）
- 移住施策については仕事重視から暮らし重視になった（移住定住センター）
- 大人数を集める企画ができなくなった反面、地元の方々々と農園を始めることができ、田畑を活かした場づくりなど、時代に合った新たな取組が生まれた。その結果、新たな人とのつながりも生まれた。
- 自分たちが大切にしたいものが明確になった。新規事業にチャレンジするきっかけになった。休眠事業が再開するきっかけになった。



## 3-1.新型コロナウイルス感染拡大による事業影響

- 影響のあった領域は、観光業（宿泊業）、飲食業、イベント実施（物販、ワークショップ・ファシリ系）であり、もとの事業形態では回復の目途は立っていない。

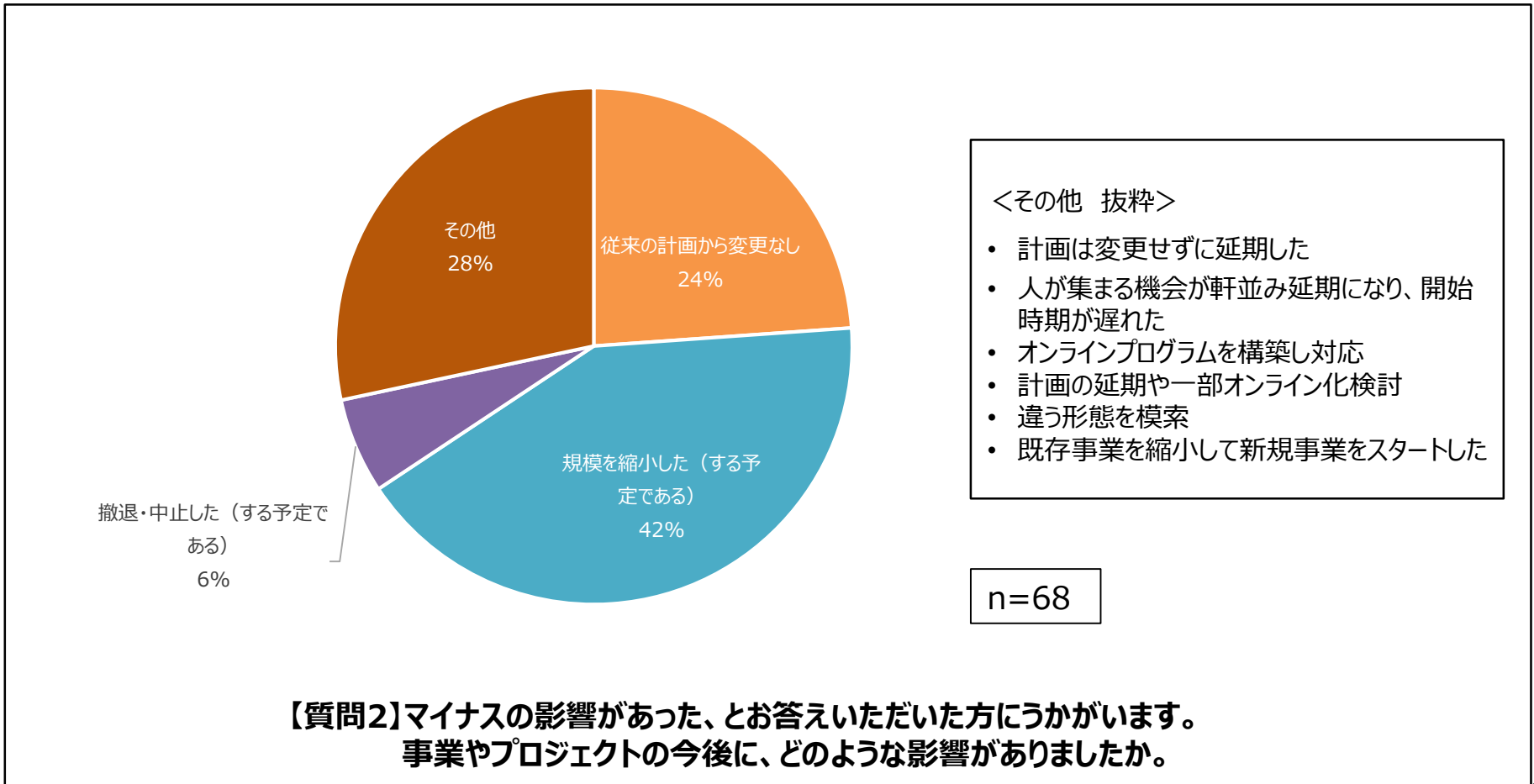
【問1補足】 コロナの影響について、可能な範囲で具体的にお伝えください。（記述）

### 《マイナス面 抜粋》

- イベントの中止
- 予定していた仕事がなくなり収入減
- 体験事業の中止
- 観光事業の収入が激減
- 営業停止、営業再開後売上1/3
- 団体客のキャンセル
- 民泊が稼働できず休業状態
- 利用客の激変、宣伝もしにくい
- 新規店舗オープン時期の延期、店舗での売り上げ減少
- 町内事業、イベントが制限されることに起因する生活者の減少・行動縮小、および、対策コストの発生
- 羊毛の糸紡ぎ体験などの中止
- 4～5月の間、店（飲食）を休業。その後もイベント出店ができず売上減
- 県外からの観光のお客様が激減し、一時的に自社の事業を臨時休業とした

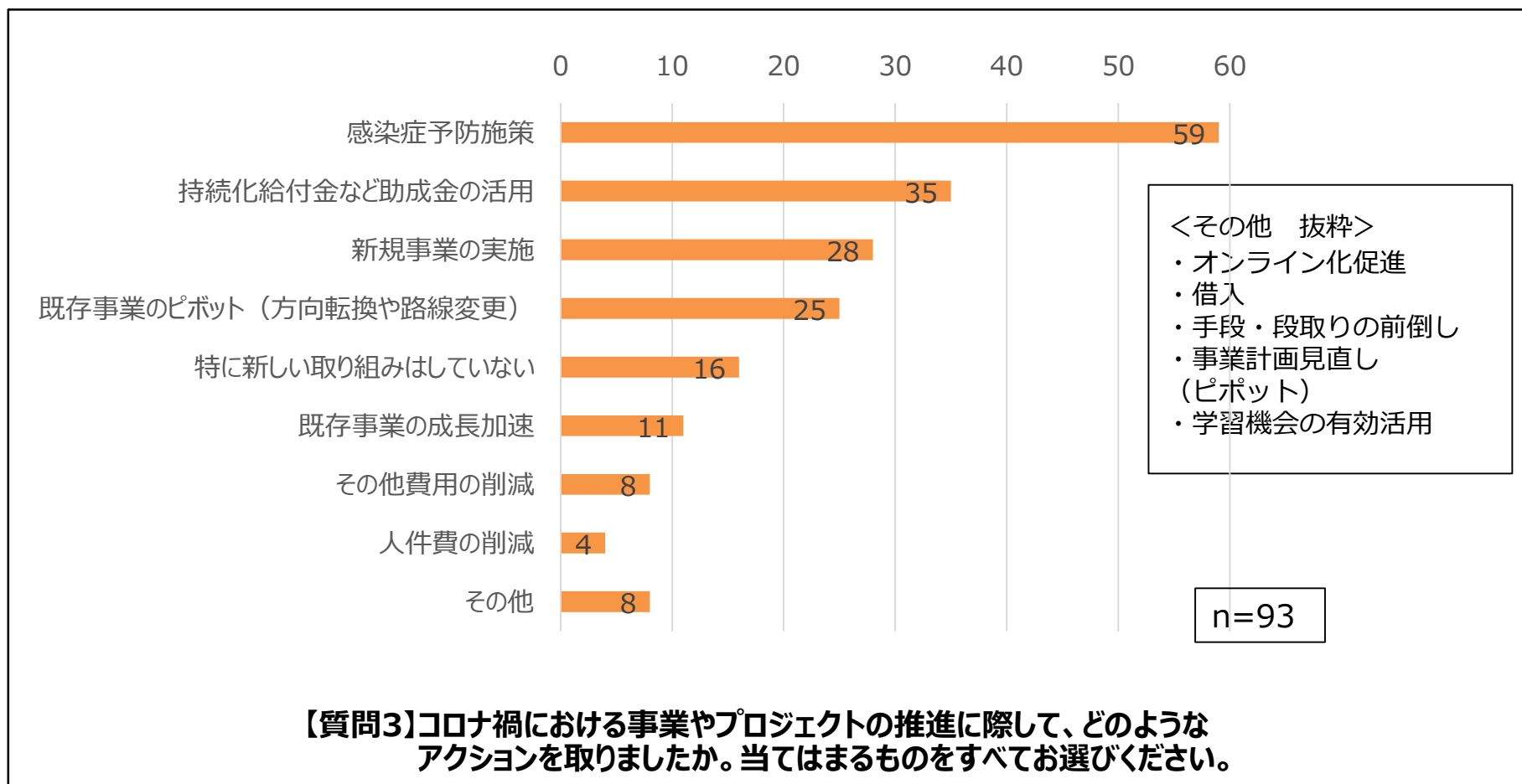
# 3-1.新型コロナウイルス感染拡大による事業影響

- 「従来の計画から変更なし」が24%、「規模を縮小した（する予定である）」が42%となり、一部影響を受けながらも、事業を推進しているローカルベンチャーが多い。
- 「撤退・中止した（する予定である）」は6%にとどまったが、問い1の回答からも大きな事業影響を受けているローカルベンチャーが多いことが推察され、コロナ禍での社会影響が長期化する中でより影響が広がる可能性がある。
- コロナ禍での自地域のローカルベンチャー支援においては、新規サービス開発や地域の中での役割づくりといった取り組みを支援することが求められる。



## 3-2. コロナ禍で事業推進するために取ったアクション

- 63%が「感染症予防対策」を実施。また35%が「持続化給付金などの助成金の活用」と回答、感染症に対する緊急対応の実施、事業維持のための支援の枠組みの活用等をして、事業を継続している。
- あわせて、30%が「新規事業の実施」、27%が「既存事業のピボット（方向転換や路線変更）」と回答。コロナ禍において、周囲の環境や社会の状況変化に合わせてレジリエンス高く新しい価値創造を行う事業を生み出す活動をしていることが示唆される。



## 3-2.コロナ禍で事業推進するために取ったアクション

- 問1のコロナでの影響で上がった3点と同様に、そこに対するアクションである「オンラインの推進」「コロナ禍において地域で新しい役割を担う」「新しい事業の提供価値創造」の3点が多く挙がった。  
コロナ禍で影響を受けている事業者も、新しい展開に向けて、動き出している。

**【問3補足】可能な範囲で具体的なアクションについて教えてください。また、同じようなチャレンジをする起業家や仲間に共有したいことがあればぜひご記入ください。（記述）**

<記述 抜粋>

### ①オンラインの推進（何らかのオンライン対応をしたとの回答14件）

- 地域商社事業においては、非接触型の物販事業を拡大すべく、ギフト商品、オンライン商品開発にチャレンジした。
- オンラインイベントの開催／自治体等へのオンライン活用研修講師
- 行政視察や修学旅行、起業プログラムなどのオンライン化
- お客様の本質的なニーズは変わっていないので、これからの生活様式の変化にあわせたサービスを提供していきたい。これまではリアル体験（オフライン）をメインに活動してきたが、オンラインの活用は必須。

### ②コロナ禍において地域で新しい役割を担う

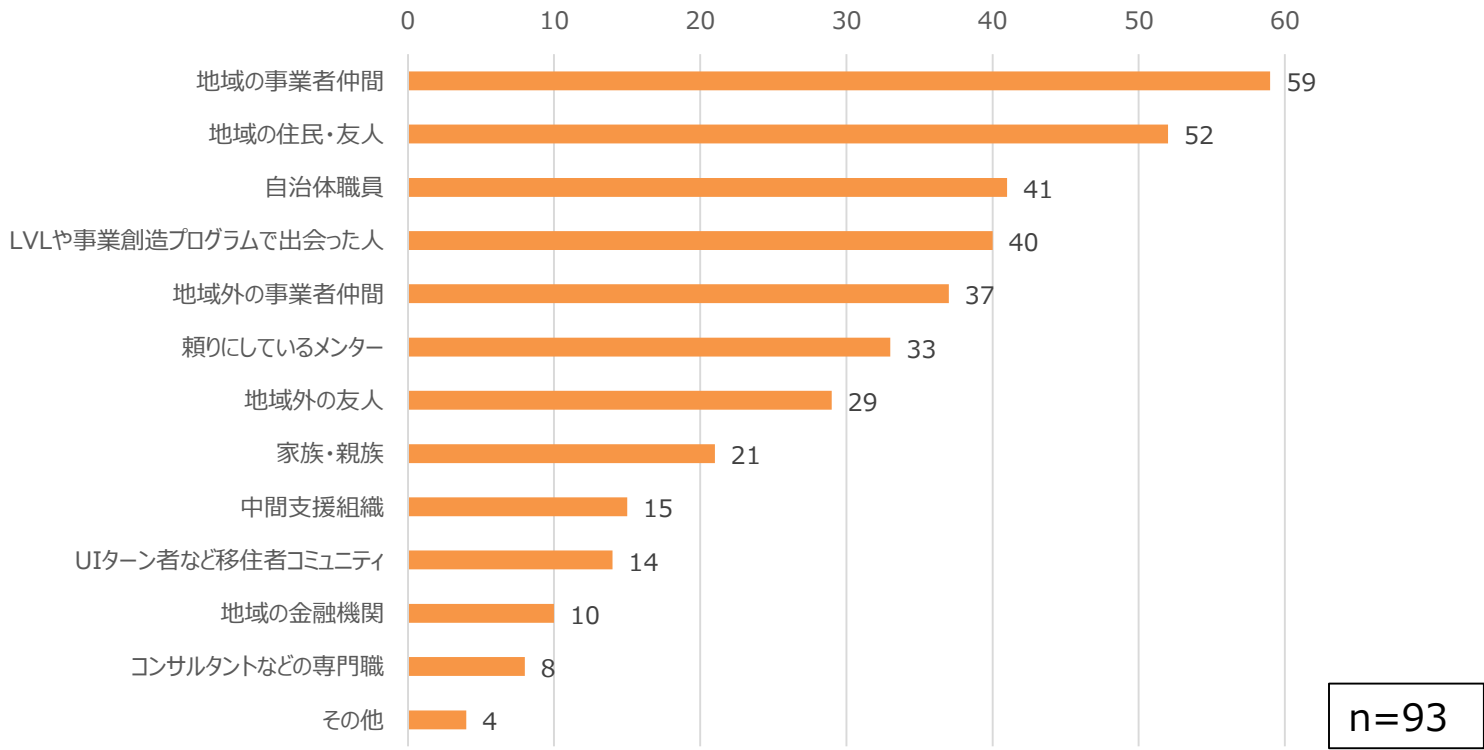
- 長期休みの学童保育。週末の親子向け講座。子育て支援としての居場所づくり。
- ①余ったマスクの寄付を受け付け必要な施設に配布するマスクバンクの実施、②コロナによる影響に関する市民アンケート実施
- 新生活様式、感染症予防行動」に即して講座運営マニュアルを作り変えた。（入室前の清掃、入室時の体調・体温管理、座席配置の工夫、配布物の手渡しを減らす、など） ※感染症の具体的対策
- 様々な分野でオンライン化が加速するなかで、エリアの年配者にはそれに詳しいひとがおらず、我々がサポートすることでエリアでのプレゼンスを上げることができた。具体的には、デリバリーサービスの開発サポートやオンラインイベントの開催補助、また各種補助金申請のサポートなど。危機こそ年少者にとってのチャンスであると思う。

### ③新しい事業の提供価値創造

- 大掛かりなイベントは縮小、日常の延長にある取り組みを加速させた（路上で定期的な野菜直売の実施等）。
- 本来は観光を目的とした事業展開を進めていたが、現在は自治体とリモートワーク向けの関係・移住人口の増加を目的としたセミナー等を行っている。コロナ以前より反響はあるが、受け入れ環境が整っていないため模索中。
- 応援キャンペーンの実施等（※地域商社事業／出身者で帰省できない人向けに、地元事業者のものを送る）。
- 集客を重んじる体験型の企画から、コワーキングに近い形で個人が分散的に関わられるような仕組みにシフトした。
- 岩手県内の牡蠣卸先の新規開拓、ふるさと納税返礼品掲載予定、三陸食べる通信掲載を社内提案（※都市部に直接営業に行けなくなったので県内を強化）。
- テイクアウトメインの地産地消カレー屋をスタートした。停止していた地酒と地つまみの通販事業を再開させ、オンライン呑み会の要素を追加。また、クラウドファンディングの伴走支援事業をオンライン中心で拡大中。

## 3-2.コロナ禍で事業推進するために取ったアクション

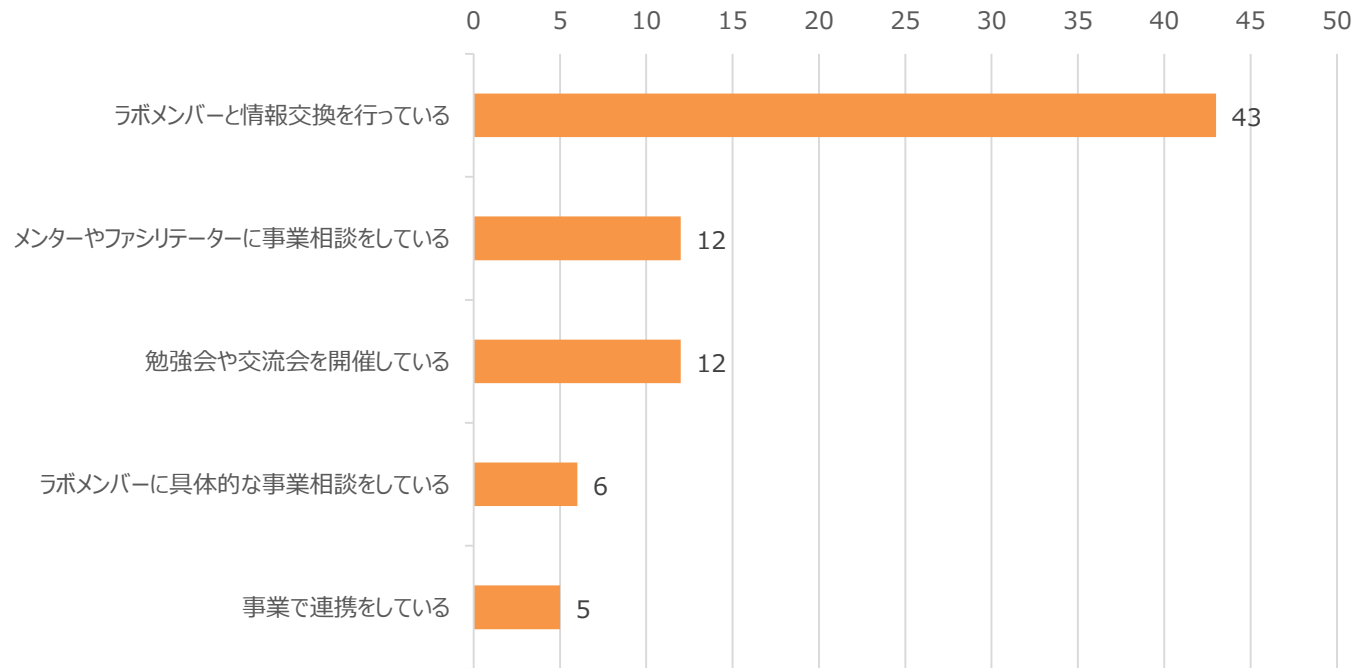
- 都市部のベンチャーと異なり、地域の中で特定の事業領域だけでない多様な役割を担うローカルベンチャーは、地域内の関係性が事業基盤の1つになることも多く、関係資本が非常に重要であるといえる。
- ローカルベンチャー支援は、事業計画やビジネス指導だけではない、地域の事業者間での情報交換や、事業相談をできる関係を作るなどの地域内ネットワーク構築支援等が求められる。
- 「LVL等の事業創造プログラムで出会った人」、「地域外の事業者仲間」の回答も多く、地域内の基盤はありながらも、地域を超えて、事業相談ができる相手も求められている。



【質問4】地域で事業やプロジェクトを進める上で困ったとき、どのような人に相談しますか？  
当てはまるものをすべてお選びください。

## 3-2.コロナ禍で事業推進するために取ったアクション

- ローカルベンチャーラボ終了後のアクションについては、約65%がラボメンバー同士での情報交換を行っている。その他メンターへの事業相談や勉強会の実施等の回答が多く、ラボ内の横のつながりが非常に強く、地域外での相談先として機能している。
- またローカルベンチャーラボに自地域のプレーヤーを送り込むことで、事業を磨くとともにそのプレーヤーを起点にしたネットワークの構築ができるといえる。
- 問1・3よりローカルベンチャーラボはコロナ禍でも新しい価値創造に取り組む人材が多く、このような人材同士の情報交換やネットワークがあることで、各地域のローカルベンチャーのレジリエンスも高めていると考えられる。

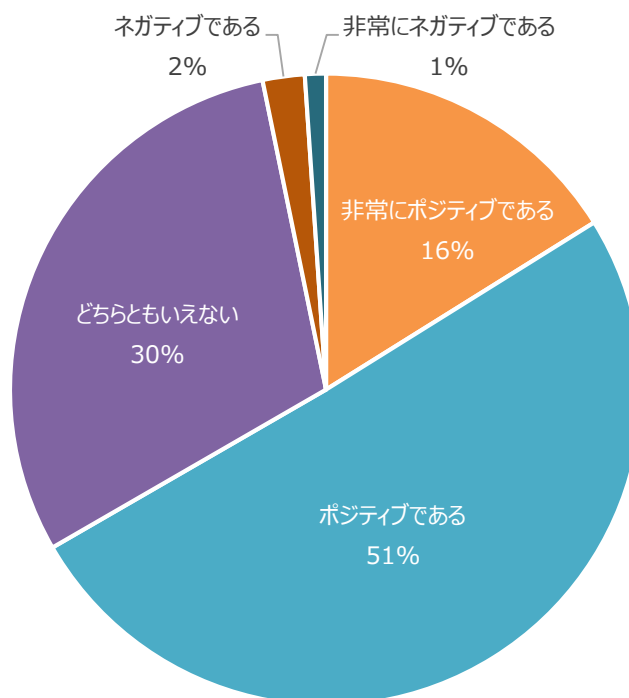


n=63

【質問5】ローカルベンチャーラボで出会った人たちとの、プログラム終了後のアクションについて、当てはまるものをすべてお選びください。（1-3期生のみ）

## 3-2.コロナ禍で事業推進するために取ったアクション

- コロナ禍の事業推進について、67%以上が「非常にポジティブである」「ポジティブである」と回答。ネガティブは、3%のみにとどまった。事業影響を受けながらも**非常に前向きに事業を推進している**ことがうかがえ、問1・3の回答とあわせ、危機の中でもポジティブに、起業家精神を発揮しながら新しい価値の創造に取り組んでいると示唆される。
- 問5のアンケート結果からは、危機の中でも前向きに行動を続けるコミュニティがあることが示唆された。そうした部分にも要因であるのではないかと考えられる。



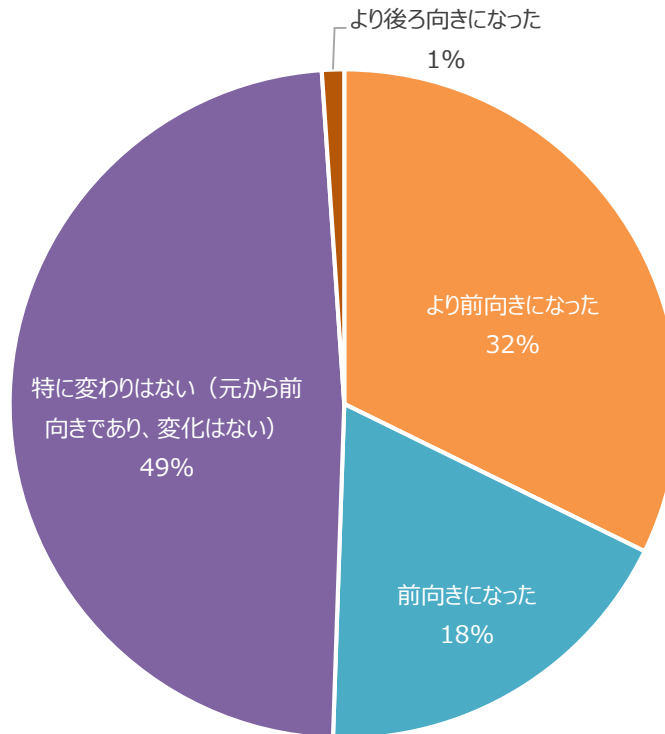
n=93

【質問6】ご自身についてうかがいます。コロナ禍における事業やプロジェクトの推進について、どう感じていますか。



### 3-3. コロナ禍での地域との関り方や捉え方の変化 (ローカルで事業・プロジェクトあり)

- コロナ禍においての地域で暮らすことへの意識の変化について、95%が前向きであると回答した。またそのうち50%が、コロナを機に「より前向きになった」「前向きになった」と回答しており、価値観の変容により、地域での暮らしにより肯定感や関心が増していると考えられる。

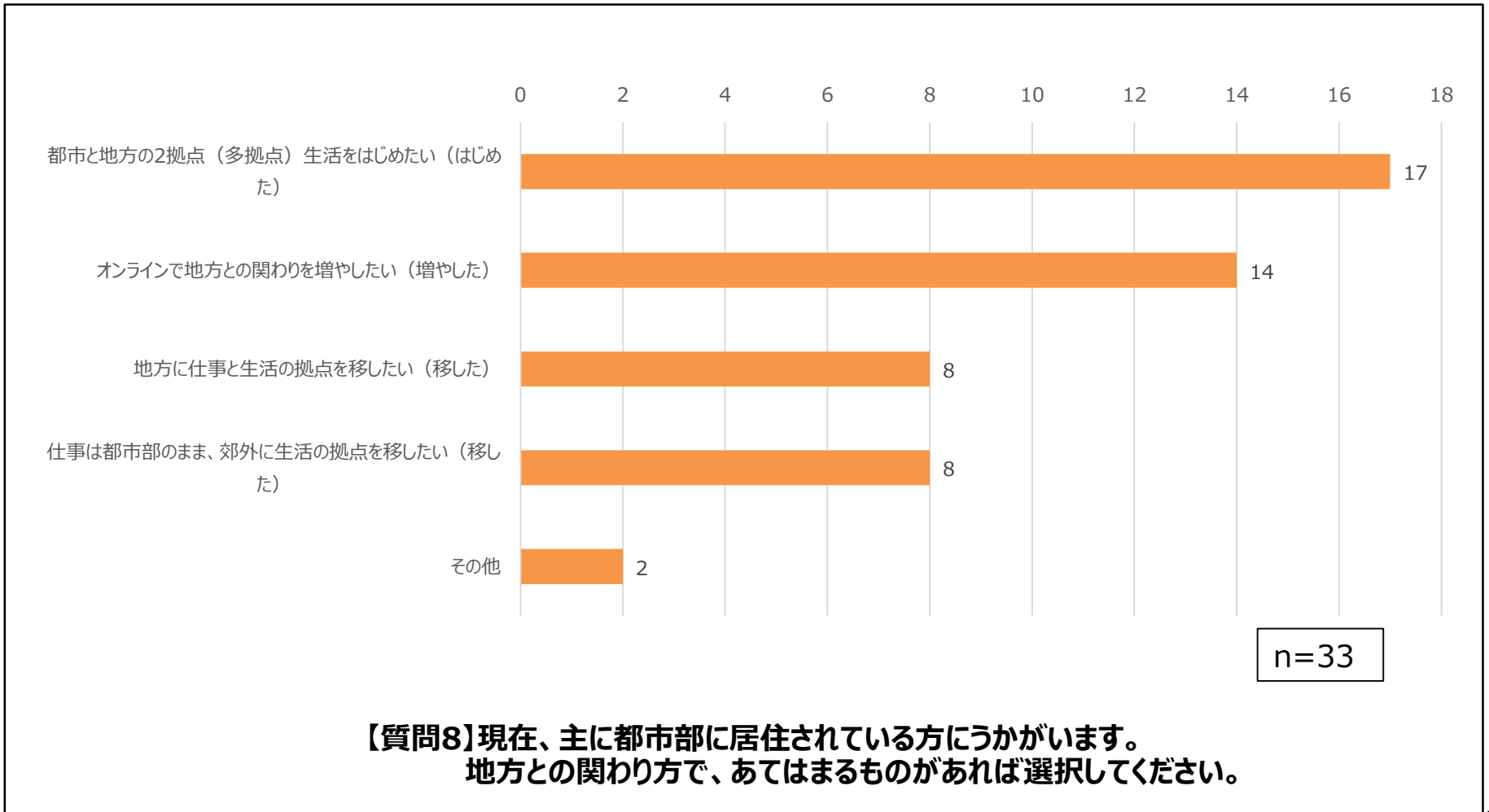


n=93

【質問7】コロナ禍において、地方で暮らす/地方に関わることへの意識はどう変わりましたか。

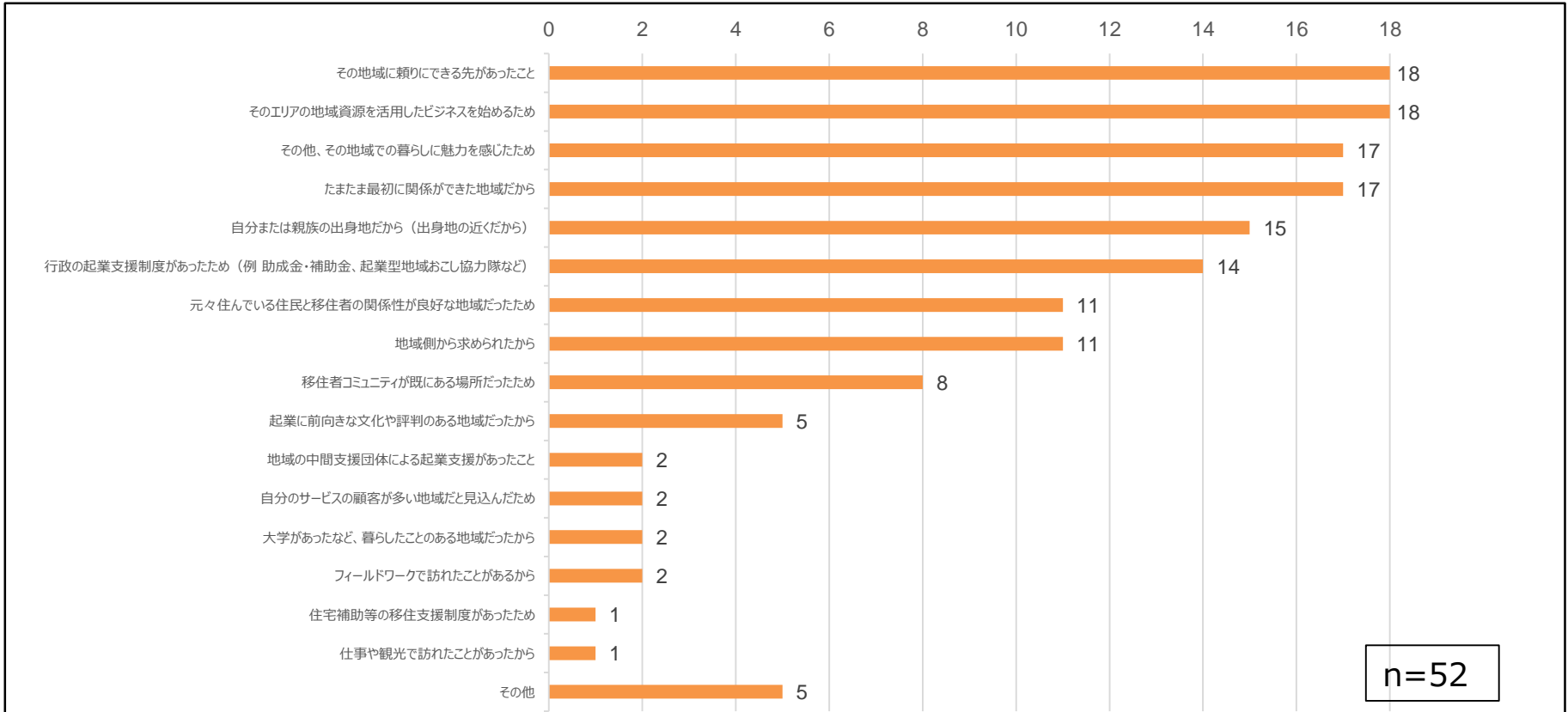
### 3-3. コロナ禍での地域との関り方や捉え方の変化 (ローカルで事業・プロジェクトあり)

- 問7からも示唆されるとおり、地域に生活の拠点を移すこと、また何かしらの拠点を持つことへの関心が強まっている。
- 特に「**都市部と地方の2拠点生活を始めたい**」と**50%以上**が回答。事業・仕事のオンラインかも進み、地方に拠点を置くことの現実味が増し、これを機に特定地域との関係性を深めたいというニーズは高い。オンラインで地域とかかわるきっかけづくりや、複数拠点としての地域の場の提供など、1歩を踏み出しやすいステップの提供が有効であると考えられる。



### 3-3. コロナ禍での地域との関り方や捉え方の変化 (ローカルで事業・プロジェクトあり)

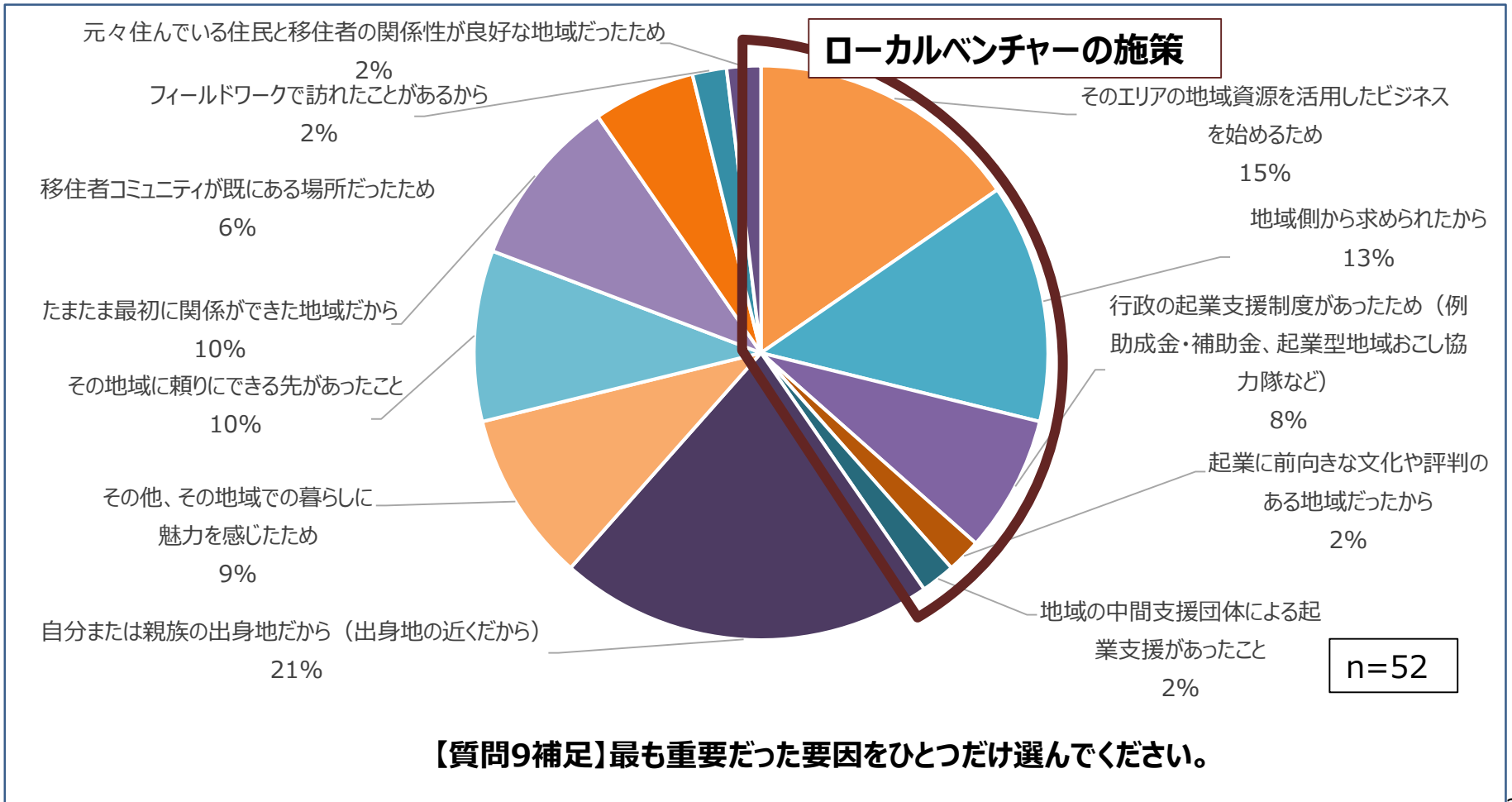
- 地域に移住し起業やプロジェクトを進めるうえで重要だと考えることについて、「その地域に頼り先がある」「たまたま最初に関係性ができた地域であった」「自分または親族の出身地だから（出身地の近くだから）」等、関係性があるか、頼れる先があるかを重視した回答が多い。
- 「自分のビジネスに活用できる地域資源がある」等の回答も多く、**自地域の地域資源・テーマを打ち出す等の施策が重要であると考えられる。**



**【質問9】地域に移住し起業やプロジェクトを開始した方にうかがいます。  
以下の選択肢のなかで、きっかけになったものをお選びください。**

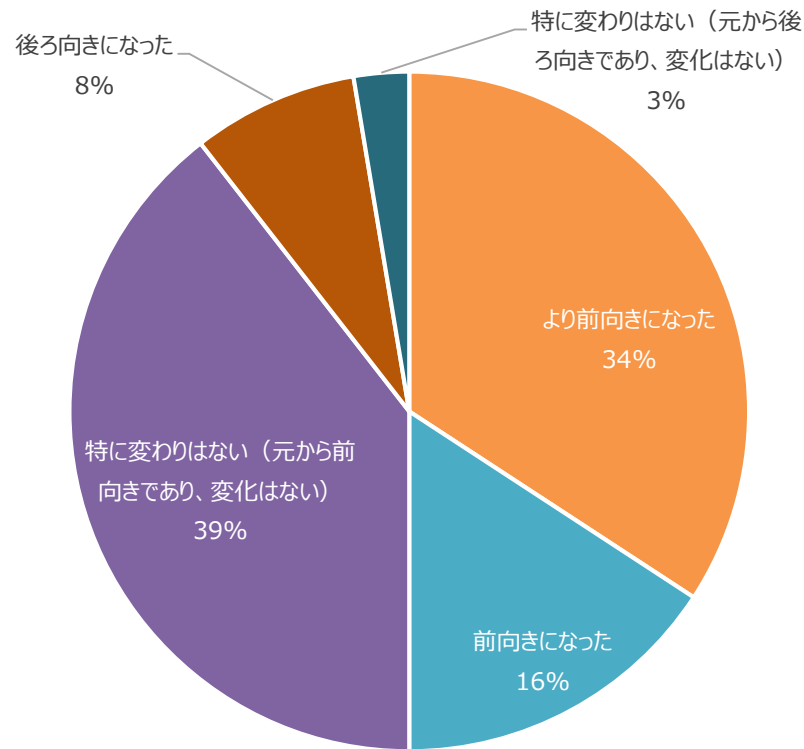
### 3-3. コロナ禍での地域との関り方や捉え方の変化 (ローカルで事業・プロジェクトあり)

- もっとも重要だった要因で「そのエリアの地域資源の活用したビジネスを始めるため」「地域側に求められたから」等の回答が40%を占め、ローカルベンチャーの施策である、**地域資源の発掘・発信や呼びかけ、起業の機運づくりは移住・起業のきっかけになっている。**
- ローカルベンチャーの担い手の移住・起業を促進するためには、地域内に頼れる関係性を作ることと併せて、ローカルベンチャー支援施策が非常に重要となることが示唆される。



### 3-4. コロナ禍での地域との関り方や捉え方の変化 (ローカルで事業・プロジェクトなし)

- 「より前向きになった」「前向きになった」の回答が50%、「特に変わらない（元から前向きであり、変化ない）」を含むと、**地方で暮らすことについて前向きである層が約90%**となった。
- 「前向きになった」との回答においては、仕事や家族の都合ですぐには移動できなかった層が、仕事がオンライン化されたこと、また価値観が大きく変わったことで、より具体的に地方に移住し暮らすことが現実味を帯びて感じられるようになってきたのではないかと考えられる。

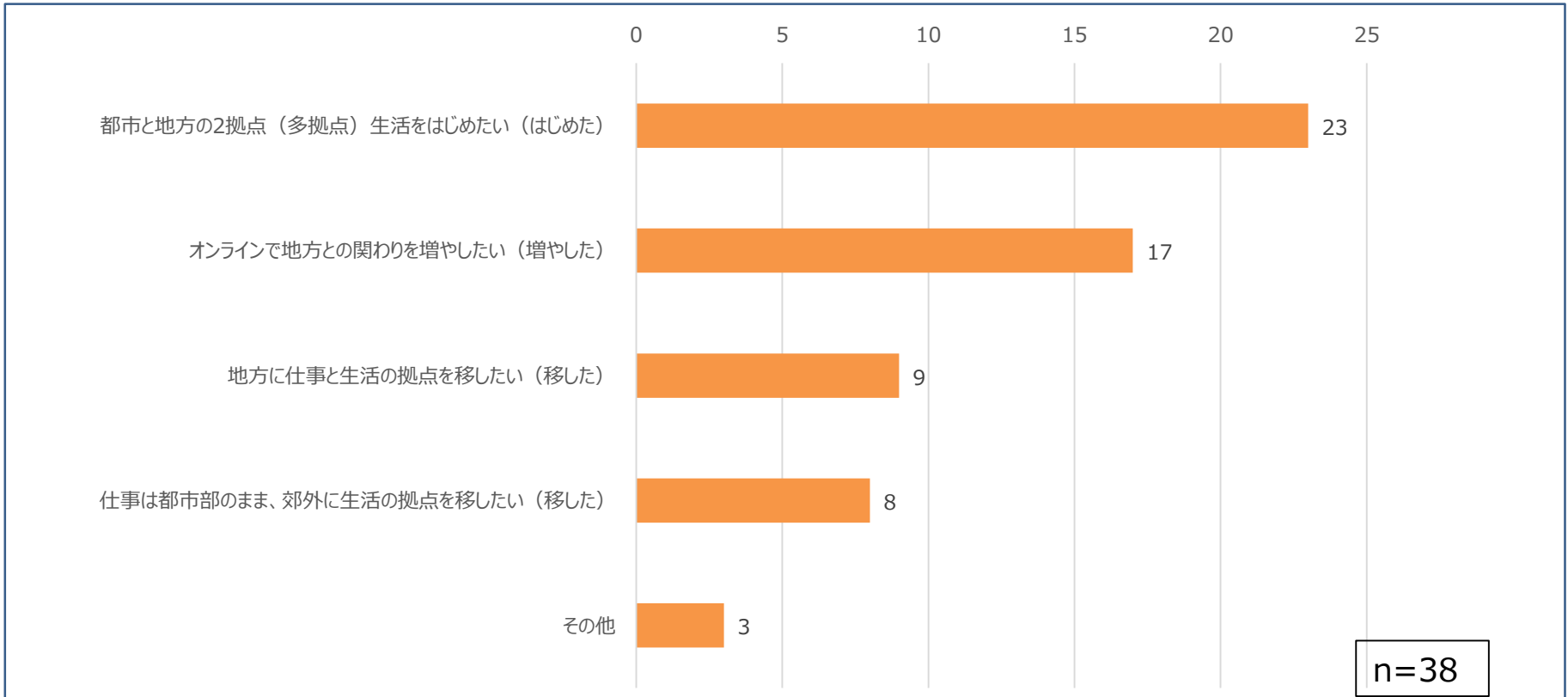


n=38

【質問11】コロナ禍において、地方で暮らす/地方に関わることへの意識はどう変わりましたか。

### 3-4. コロナ禍での地域との関り方や捉え方の変化 (ローカルで事業・プロジェクトなし)

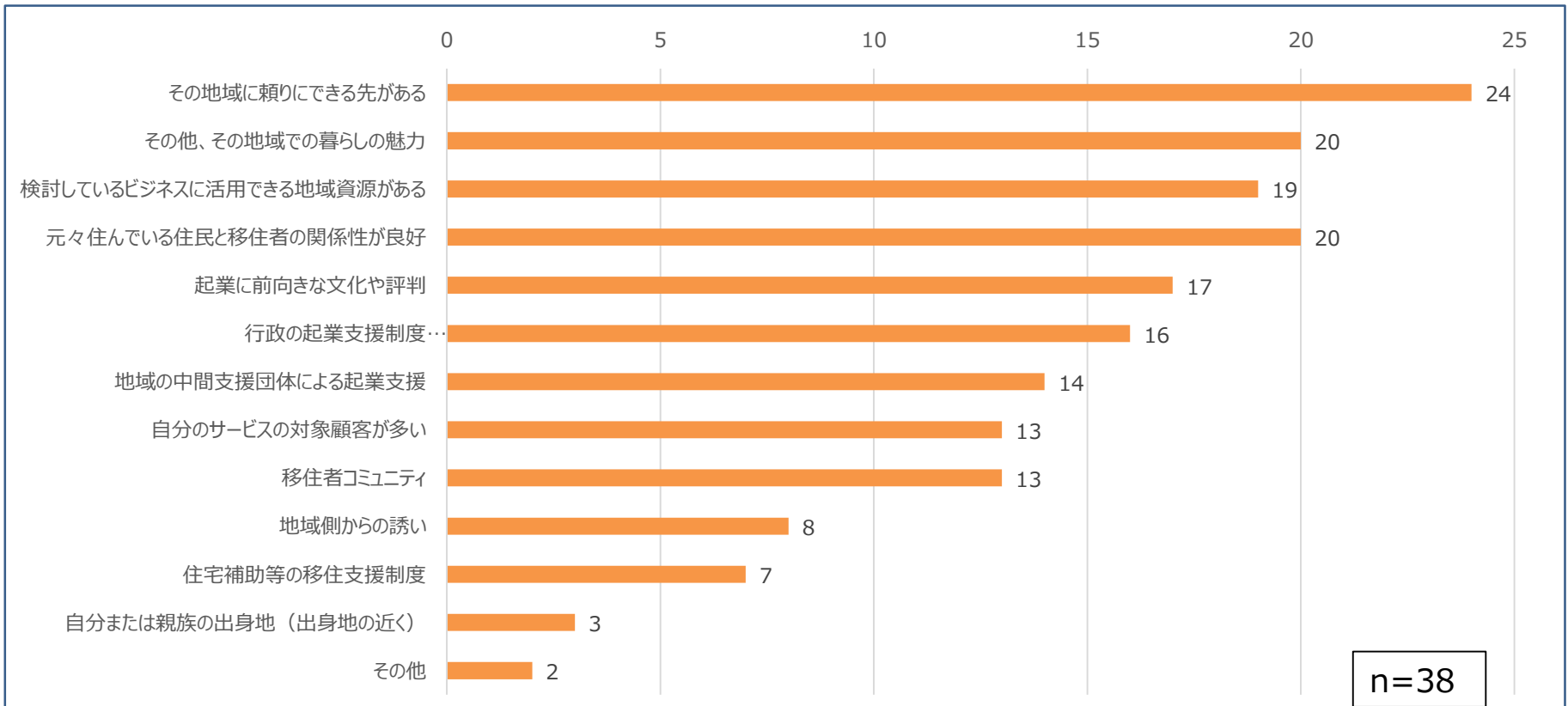
- 問8同様に、現在地方とかかわる事業・プロジェクトを行っていない層も、地方に生活の拠点を移すこと、また何かしらの拠点を持つことへの関心が強まっている。
- なお、60%以上が「都市部と地方の2拠点生活を始めたい」と回答。45%が「オンラインで地方との関わりを増やしたい（増やした）」と回答している。地域側には、ライフステージやニーズに合わせた自地域との関わりのお機会づくりが求められると考えられる。



【質問12】地方との関わり方で、あてはまるものがあれば選択してください。

### 3-4. コロナ禍での地域との関り方や捉え方の変化 (ローカルで事業・プロジェクトなし)

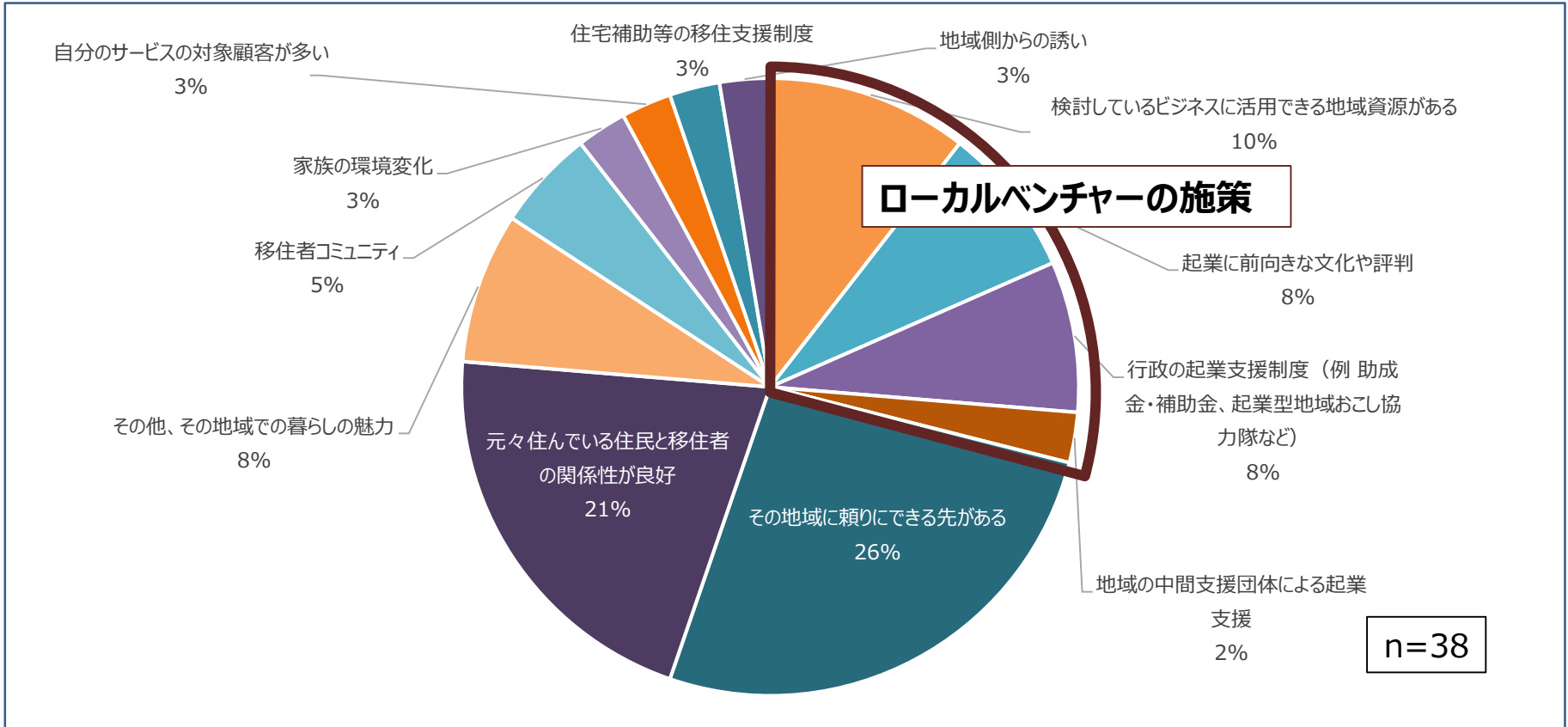
- 地域に移住し起業やプロジェクトを進めるうえで重要だと考えることについて、「その地域に頼り先がある」「もともと住んでいる住民と移住者の関係が良好」等の**関係性の要因**が多い。
- 「検討しているビジネスに活用できる地域資源がある」「起業に前向きな文化や評判」等の回答も多く挙がった。



【質問13】地域に移住し起業やプロジェクトを進める上で、重要だと思う選択肢を選んでください。

### 3-4.コロナ禍での地域との関わり方や捉え方の変化 (ローカルで事業・プロジェクトなし)

- 「その地域に頼りにできる先がある」「住民と移住者の関係性が良好」等の関係性を重視した回答が多く47%を占めている。移住にあたっては、頼れる人の存在や地域内で人間関係を築くにあたっての安心感が重視されている。段階を経た関わりの機会を提供しながら、関係性を育むことが重要であると示唆される。
- 関係性に加えて、地域資源の打ち出しや、起業に関する風土づくり、制度を整えて機会提供等のローカルベンチャーの施策の回答が28%となり、移住・起業の決め手として重要であると示唆される。特に起業を志す移住者は、自分の事業をどれだけイメージできるかが移住の決め手になりうる。



n=38

【質問13補足】最も重要だと思う要素はどれですか。



困っている課題、ローカルベンチャー協議会やラボ、行政に期待する支援・ニーズとして、上がった内容を参考として記載。【質問10、14】

## 事業・プロジェクト実施層 ニーズ

### 定期的なローカルベンチャーラボの場への参加

- ・ ローカルベンチャーラボの延長戦のようなものが欲しい（ニーズ）
- ・ 地域に入る中で日々のチャレンジに醍醐味を感じているが、ともすると虫の目になりがちであるため、折に触れて鳥の目で振り返る接点などを持つことができるとありがたい（ニーズ）
- ・ 都内のイベントで情報収集したり、ネットワーキングをする機会が減ってしまったので、何らかの形で新たにローカルベンチャーラボ関係の方々との繋がりをつくれる場があると良いと思う。（ニーズ）

### ノウハウ系

#### ■ 資金調達系

- ・ 寄付収入増による運営の安定化（課題）
- ・ 投資と融資の間のような資金調達（課題）
- ・ 資金調達方法について知り選択肢を広げたい（ニーズ）

#### ■ 行政との連携

- ・ 行政との関係づくりの方法。どこからどのように入って行くのがよいのか。（課題）
- ・ LVラボで事業案を考えるときに、自治体の政策や事業計画を学ぶ機会があれば、地域で実行力を高める循環の仕組みになると思います。自治体政策のアクションプランの出口として事業案とマッチングできるサービスがあれば実行力が高まるのではないのでしょうか。（ニーズ）
- ・ 行事自体が3密（同時期・同方面・同内容）である修学旅行を地方に分散化させるにはとても良い機会だと考えてます。（ニーズ）
- ・ 協議会の地域と連携して新しいプログラムを展開したいと思ってます。（ニーズ）

#### ■ オンライン

- ・ オンライン会議やイベント開催ノウハウ（ニーズ）

## 事業・プロジェクト実施層 ニーズ

### 情報発信・交換

- 公開掲示板みたいなもの（ニーズ）
- 地域創生xたびでアプリ作ってます。テストユーザーやコラボレーションできる企画を探してます（ニーズ）
- 新店舗オープン時、情報発信させていただけると嬉しいです。（ニーズ）
- より広いジャンルの取り組みをキャッチアップしたい。事業以前の取り組みについても興味がある。（ニーズ）
- このアンケート結果を含め、みなさんがコロナ禍でどのような工夫や新たな動きをしているのか最新事例を共有できるオンラインイベントやページがあると面白い。（ニーズ）

### 具体の事業支援

- 地域商品に興味関心の高い営業先やバイヤー等の紹介、リモート商談会の開催等（ニーズ）
- どんな場所においても仕事をがんばりたい女性が活躍していける場づくり、人づくり、ゆるやかな企業体として企業と新しい価値を生み出すことを目指して活動しています。全国のそういった女性たちと繋がる機会や、コラボ商品の開発等を検討したい企業様と繋がる機会があればぜひ積極的に参加したいと思います。（ニーズ）

## 事業・プロジェクト実施なし・アクション待ち層

### フィールドワーク、リアルでの対話

- ・ オンラインだけでは不十分でつながりが欲しい。(ニーズ)
- ・ どこかでオフラインがあれば良いなと感じました。人とつながっていきそうで繋がっていないこの感覚はなかなか気持ち悪いなと感じています。(ニーズ)
- ・ 地域の資源や人を知るためにはやはり地域に行きたいのですが、東京から出られない(地方に行きづらい)ことはやはり大きな課題です。また、家族でその地域を見に行くための支援があるととても嬉しいです。(ニーズ)

### 多様なフェーズに合わせた機会づくり

- ・ 自分のできる範囲で地域と関わればと思うが、丁度良い距離感のものがない。あるかもしれないが、見つけられないことです。(課題)
- ・ やりたいと思っている本人だけではなく、家族の支援(ハードルを下げる、仕事ができる)という観点も促進する上でネックになることが多いので、その観点でも支援があるとより進むと思いました。(ニーズ)